

# 栗原市地震防災マップ

## 地域の危険度マップ 栗駒地区(1/2)

### 宮城県沖地震(運動型)の場合



○この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ(宮城県沖地震(運動型))において示された強さ(震度の揺れとなった場合に、地震の状況の影響を命じてこの程度の建物被害(全壊及び半壊相当)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。

○地震の発生仕方によっては、被害の状況がこれよりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。

○宮城県沖地震(運動型)は、1793年に宮城県沖の広い範囲で発生したと考えられ、次の宮城県沖地震でも起きる可能性があると考えられています。マップシート8を想定しています。

栗駒地区

金成地区

鶯沢地区

一迫地区

築館地区

#### 地域の危険度マップとは

■地域の危険度マップ  
地域の危険度マップは、地震による被害(全壊・半壊)をその被害の程度に応じてランク分けしたもので、地図に表したものです。具体的には「揺れやすさマップ」です。

■阪神・淡路大震災の死亡原因  
震災/阪神・淡路大震災の死亡原因(死者19,963名)の内訳は、死者の約8割(16,000名)が建物倒壊によるもので、約2割(3,963名)が非建物倒壊によるものです。

○地震による死傷・ケガの原因は何？  
阪神大震災での死者の約8割は建物倒壊によるもので、建物倒壊による死傷とされています。

○皆さんの生命・財産を守るためには、住宅・建築物の耐震性が重要です。

#### 建物の耐震化が重要です。

■木造住宅の耐震診断

木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

- 建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
- 住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験したことがあるか。
- 住宅の構造、形、備って大きな窓がたぐさあるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状がなくても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- ドアあるいは窓を開けたとき、柱と建具との間に著しい縦長の三角形の隙間がある。
- ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の開閉が変形のために思うようにならない。
- 窓の取手が著しく水平を欠いている。
- 建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
- 床面の床板が陥って感じられる。
- シロアリの成虫(4枚羽根のついたものあり)が浴室から飛び出す。
- 屋根の様あるいは軒先が変形している。
- モルタル塗壁に長い斜めひび割れが入っている。
- 浴しや浴室の土台の一部が老朽化している(腐っているなど)。

#### 家具の地震対策も重要です。

■家具の対策

住宅の全壊を免れても、ガラスの飛散やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の家電製品が飛んでくるといった、日常生活からは想像できない事態によって、思わぬケガや火災、避難が遅れて火災に巻き込まれたりすることがあります。地震発生時に限らず、家具の約3割はガラスの飛散や家具の転倒・落下によるケガによるといわれています。

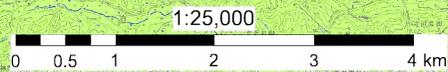
家具や家電製品の地震対策としては、次のようなものが考えられます。

- 固定器具を用いて家具や家電製品を固定する。
- 家電製品の足場が揺れることのないように、裏の隙間を釘で壁を固定する。
- 床間や畳を敷く場所のみに、家具や家電製品を置くのではなく、壁や天井に固定する。
- 大型の家具は、壁や天井に固定する。
- ガラス製の家具やタンスは、固定器具を用いて固定する。
- ガラス製には飛散防止フィルムを貼る。

#### 凡例

##### 木造建築物の全半壊率

0~3%
3~5%
5~7%
7~10%
10~20%
20~30%
30%以上



※このマップにおいて、市の境界線等、計算上、色の塗られていない箇所があります。

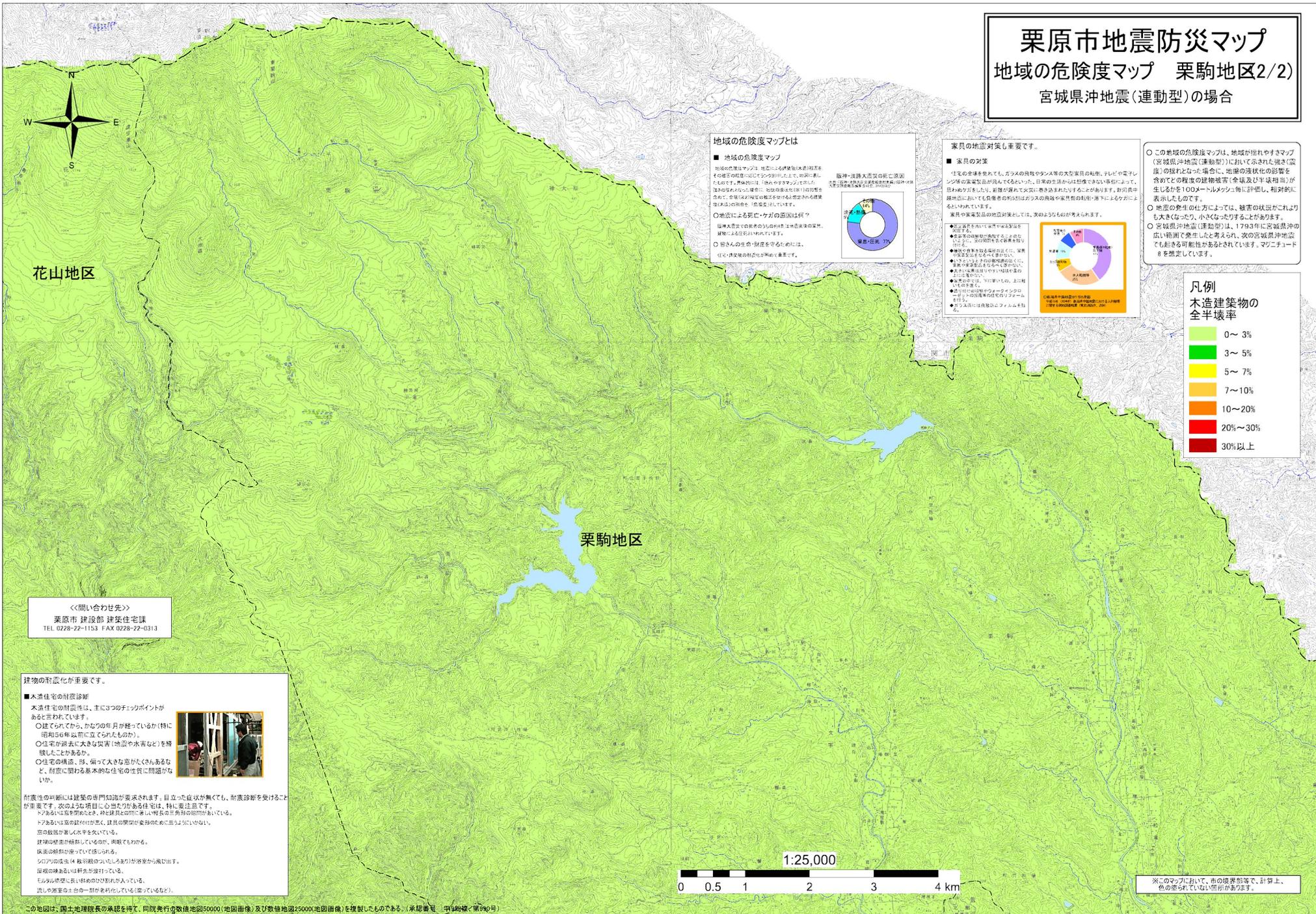
<<問い合わせ先>>  
栗原市 建設部 建築住宅課  
TEL 0228-22-1153 FAX 0228-22-0313

この地図は、国土地理院長の承認を得て、河野発行の数値地図5000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平19総研、第980号)

# 栗原市地震防災マップ

## 地域の危険度マップ 栗駒地区2/2)

### 宮城県沖地震(運動型)の場合



花山地区

栗駒地区

＜問い合わせ先＞  
 栗原市 建設部 建築住宅課  
 TEL 0228-22-1153 FAX 0228-22-0313

**建物の耐震化が重要です。**

■木造住宅の耐震診断  
 木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

- 建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
- 住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験しているか。
- 住宅の構造、形、留って大きな窓がたくさんあるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状がなくても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- トラス(はり)の梁の接合が、釘で接合されている。
- トラスの接合が、釘で接合されている。
- 窓の板金が著しく水平を失っている。
- 建物の傾斜が傾斜しているが、肉眼でもわかる。
- 床面の傾斜が著しく傾斜している。
- シロアリの被害(4枚羽根のついた土壌)が居室から飛び出す。
- 屋根の棟あいは軒先が歪んでいる。
- モルタルの壁に斜めひび割れが入っている。
- 土間や浴室の土台の一部が劣化している(凹んでいるなど)。



この地図は、国土・地院院長の承認を得て、同院発行の数値地図5000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 甲第2007-第200号)

**地域の危険度マップとは**

■地域の危険度マップ  
 地域の危険度マップは、地震による被害(人命・財産)をその被害の程度に応じてランク分けした上で、地図に表したものです。詳細については、図解や解説マップをご覧ください。また、被害の発生した場合には、地域の危険度マップ(1)の図解を参考に、全壊(全壊)の被害を受けたと想定される建築物(木造)の割合を「危険度」で表しています。

○地震による死亡・ケガの原因は何?  
 阪神・淡路大震災の死者の約8割は木造住宅の倒壊、被害に巻き込まれたとされています。

○揺れによる生命・財産を守るためのには、住む・建物の耐震性が最も重要です。

阪神・淡路大震災の死亡原因  
(死者の約8割は木造住宅の倒壊による)

倒壊・圧死	71%
窒息	14%
火災	10%
その他	5%

**家具の対策**

住居の全壊を免れ、ガラスの飛散やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の家電製品が倒れてきたら、住居の住人は想定外な事態によって、思わぬケガをします。家具が倒れて火災に巻き込まれることもあります。新居開中、築地においても、住居者の約1割はガラスの飛散や家具の転倒によるケガによるケガが報告されています。

家具や家電製品の固定対策としては、次のようなものが考えられます。

- 固定器具を用いて固定する
- 固定器具の取付が適切かどうかを確認する
- 固定器具の取付位置を確認する
- 固定器具の取付位置を確認する
- 固定器具の取付位置を確認する
- 固定器具の取付位置を確認する
- 固定器具の取付位置を確認する
- 固定器具の取付位置を確認する

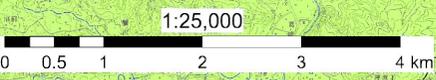
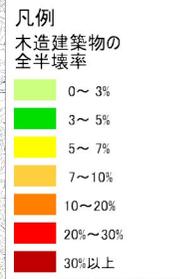
家具や家電製品の固定対策としては、次のようなものが考えられます。

固定器具	41%
固定器具	25%
固定器具	14%
固定器具	10%
固定器具	10%

○この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ(宮城県沖地震(運動型))において示された強さ(震度の揺れと同等)場合に、地震の強弱化の影響を含めた程度の建物被害(全壊及び半壊相当)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。

○地震の発生した場合には、被害の状況がこれよりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。

○宮城県沖地震(運動型)は、1993年に宮城県沖の広い範囲で発生したと考えられ、次の宮城県沖地震でも発生する可能性があると考えられています。マシニョードを想定しています。



※このマップにおいて、市の境界部等で、計算上、色の繋がっていない箇所があります。